

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	2	ぬくもり・雄武	整理番号	28
基本施策	8	子育て・子育ての充実	評価 責任者	保健福祉課長 豊田 通敏
単位施策	3	少子化問題への対応		保育所長 中村 文隆

1 施策の概要

基本方針	子ども時代から「結婚や子どもを持つこと」の大切さ、喜びなどを積極的に啓発するとともに、国・道などと連携しながら、出産や子育てなどに関する経済的支援を推進します。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	本町の出生人口は、総人口が年々減少しているのに比べて、ほぼ横ばいの状況が続いており、減少傾向にはない。町では、子どもの保健対策を充実し、子育て世帯の経済的負担及び子育てに対する不安を軽減するよう努めている。	少子化は将来の社会保障制度の崩壊にもつながる重要な問題であるとの認識の下、子育て世帯に対し保育料や医療費負担の軽減等の経済的支援をおこなってきた。雄武町においては人口が減少する中で出生人口はほぼ横ばいで推移しており、平成26年3月にまとめた「子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査」結果においては雄武町は子育てをしやすい町かどうかの問いに対して「そう思う」、「どちらかというそう思う」の割合が55%強という評価であった。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	この政策が子どもを産み育てるインセンティブにどう働いているのか、また、子育ての負担感が緩和されているのかを他の政策と併せて検証するとともに、具体策として子どもにかかる医療費負担減の拡大を図る必要がある。	国内のデータでは初婚年齢は年々上昇しており、子どもを持つ、持たない以前に結婚しない若者も増えている。結婚しても子どもをつくらない理由が経済的不安なのか、欲しくてもできないのか等検証した中での施策展開が必要であるとともに、初婚が遅ければ子どもを生むためのリスクが大きくなることを踏まえ、結婚や子どもを持つことの大切さや喜びについて啓発を強めていく必要がある。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	「子育て支援」全体の満足度					
	定義等	まちづくりアンケート等により「満足」「やや満足」と回答した者の比率					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						30%
	実績値		22.20%	未調査	未調査	未調査	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	児童手当支給事業	社会福祉係	60,280	A	継続/現状維持	A
②	子ども医療費助成事業	保険給付係	10,044	A	継続/現状維持	A
③	【再掲】母子保健事業	保健係	3,851	A	継続/現状維持	A
④	【再掲】5歳児発達支援事業	保健係	45	A	継続/現状維持	A
⑤	【再掲】子育て支援拠点事業	児童保育係	621	A	継続/拡充	A
⑥	【再掲】快適住まいづくり促進事業	建築係	59,791	A	継続/現状維持	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	子どもを生み、育てるための環境づくりを推進することは政策目標達成のために効果的である。
② 有効性	A	「子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査」結果からも、期待された効果は得られていると判断できる。
③ 効率性	A	近年の町内における出生数からも、子育てができる環境づくり及び経済的支援は、単位施策及び基本施策の達成に向け効果的であると判断できる。
④ 公平性	A	少子化問題は町の存続にも影響する、町民全体の問題であることから、本施策は公平である。
⑤ 町民意見の反映	A	子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査結果や雄武町子ども・子育て会議における意見を反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
子育てに対する経済的支援の充実により、安心して子育て環境は概ね整ったと評価できるが、未婚者の増加理由の検証等により、子育て以前の課題にも着手する必要がある。	同 左	

今後の方向性



継続/拡充	継続/拡充	
今後は若者の結婚しない理由や夫婦のみ世帯が子どもを持たない理由等の分析検証により、必要に応じて新たな少子化対策事業の展開と、結婚や子どもを持つことの大切さや喜びについて啓発を強める等の取組みも必要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止